

平成 27 年度
全国公立大学学生大会
LINK topos

地域を考える学生・教員・職員の理想的な
協働体系と地域課題の解決に向けた取り組み
(公立大学学長会議同時開催)

報告書

期日 平成 27 年 10 月 10 日(土) ～ 12 日(月)

会場 愛知県青年の家

名古屋市立大学 桜山キャンパス



公立大学学生ネットワーク

LINK topos

目次

はじめに

I 公立大学学生ネットワークのこれまでの歩み

- 1 公立大学学生ネットワーク結成の背景とその概要
- 2 過去の全国公立大学学生大会 LINK topos について
- 3 これまでの取り組みと成果
- 4 公立大学学生ネットワークの意義
- 5 公立大学学生ネットワークの目的

II 平成 27 年度全国公立大学学生大会 LINK topos の概要

- 1 大会プログラム
- 2 活動内容とその成果
 - 2.1 事前交流会
 - 2.1.1 事前交流会の狙いと目的
 - 2.1.2 プログラム構成詳細
 - 2.1.3 参加者の感想
 - 2.1.4 事前交流会の成果
 - 2.2 ワークショップ
 - 2.2.1 ワークショップ狙いと目的
 - 2.2.2 プログラム構成詳細
 - 2.2.3 参加者の感想
 - 2.2.4 ワークショップの成果
 - 2.3 シンポジウム
 - 2.3.1 シンポジウムの狙いと目的
 - 2.3.2 プログラム構成詳細
 - 2.3.3 参加者の感想
 - 2.3.4 シンポジウムの成果
 - 2.4 学長・学生合同セッション及びランチ交流会
 - 2.4.1 学長・学生合同セッション及びランチ交流会の目的と狙い
 - 2.4.2 プログラム構成詳細
 - 2.4.3 参加者の感想
 - 2.4.4 学長・学生合同セッション及びランチ交流会の成果

2.5 大会を通して

2.5.1 大会を通して参加者の心境の変化

2.5.2 大会を通しての成果

- 3 参加者の対象と推移
- 4 次年以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言
- 5 全国公立大学学生大会の今後の展望について
- 6 謝辞

はじめに

平成 27 年 10 月 10、11、12 日に愛知県青年の家及び名古屋市立大学(桜山キャンパス)で平成 27 年度全国公立大学学生大会 LINK topos「地域を考える学生・教員・職員の理想的な協働体系と地域課題の解決に向けた取り組み」が開催された。本大会には全国の公立大学より学生、教員、職員 93 名が参加した。そして今年度は、地域の現状課題の中から「防災意識の啓発」、「地域コミュニティの創造」の 2 つを題材にし、その課題の解決を目指したアクションプランを立案した。本大会を通して学生、教員、職員、この三者が協力して大学や地域の課題に取り組むことで、公立大学における新たな地域貢献の協働体系を生み出していく機運を感じた 3 日間であった。

以下、最初に公立大学学生ネットワーク結成の背景及びこれまでの歩みを次いで本年度の学生大会の概要等を記す。

I 公立大学学生ネットワークのこれまでの歩み

1 公立大学学生ネットワーク結成の背景とその概要

平成 23 年 3 月の東日本大震災の発生後、全国の学生ボランティアが被災地の復興支援活動を行ってきた。そして公立大学においても同様の動きがあり、全国の各地区から被災地に向けて活動が展開された。そのような学生の活動成果を公立大学全体で共有するために、平成 24 年 11 月に静岡県立大学で公立大学学長会議特別シンポジウム及びワークショップ「公立大学学生による被災地支援と地域防災活動」が開催された。そこで初めて学長会議という場で学長と学生が直接、意見交換が行われた。その学長会議に参加した学生らが中心となって結成した団体が公立大学学生ネットワークである。当初、これに加わる団体として被災地支援・地域貢献活動を行う学生主体の団体を対象としていたが、現在では地域貢献活動を行う学生やその団体まで対象を広げている。団体の目的は、学生間の交流、情報交換等を通して学生の地域における活動の促進、向上、そして活動を行う上での課題等の解決のための情報共有である。現在、全国の公立大学生約 150 名が facebook グループを介して参加している。

2 過去の全国公立大学学生大会 LINK topos について

公立大学学生ネットワークは、平成 25 年 10 月に岩手県立大学で開催された学長会議で平成 25 年度全国公立大学学生大会 LINK topos「大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする」(公立大学協会と共催、文部科学省の後援)を開催した。34 大学 81 名の学生

がシンポジウム及びワークショップに参加し、公立大学長と意見交換を行った。

そして翌平成26年10月には第2回目の大会となった平成26年度全国公立大学学生大会LINK topos「大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」を兵庫県立大学及び人と防災未来センターで開催した。前年と同様に地域の未来について考えるワークショップ、シンポジウム、公立大学長と意見交換を行った。また、この大会では学生に加えて参加対象者に教員と職員を加えた。そのため大会テーマであり、本大会の意義でもある「学生・教員・職員の協働」について、より実感を持って理解や交流を深めることができた。平成26年度大会では前年を上回る33大学104名の参加者が集まった。平成25年度大会、平成26年度大会ともに参加者にとって非常に有意義な時間となった。



図1、図2 平成25年度全国大会集合写真(左)平成26年度全国大会集合写真(右)

3 これまでの取り組みと成果

①地域創造学習プログラム（岩手県立大学）

平成25年度より岩手県立大学では地域創造学習プログラムという課外活動が行われている。これは岩手県内の、対象となった地区でフィールドワークを行うものである。この企画の目的はフィールドワークを通して学生が岩手という地域を知り、その地域に根付くこと、そして主体的かつ能動的な学びを促すことである。この地域創造学習プログラムでは平成25年度学生大会をきっかけに、企画運営に学生が参画することになった。平成25年度にはフィールドワークのコースが2コースしかなかったが、平成27年度には8コースまで広がり、学生の地域への学びを深める場として大きく期待されている。



図3、図4 地域創造学習プログラム集合写真(左)とワークショップ風景(右)

②おなかまプロジェクト（神戸市看護大学・神戸市外国語大学）

平成25年度の大会のワークショップで立案されたアクションプランである。具体的には自治会長の人たちと学生が一緒にお鍋を囲むことで、双方が交流するというものである。この企画は普段、大学周辺に住む地域の人たちと交流する機会がない大学生に対して、地域に根付き、そこで暮らす人たちと交流を促すことである。おなかまプロジェクトは平成26年度に初めて神戸市看護大学・神戸市外国語大学の学生が中心となって行われた。その際、両大学が立地している兵庫県神戸市西区学園西町の自治会の方々と一緒に行われた。平成27年の冬に神戸市看護大学の学生が中心となり第2回目を実施予定である。



図5、図6 おなかまプロジェクト風景その1(左)とその2(右)

③学内 LINK topos の開催（大阪府立大学、岩手県立大学）

LINK topos を特定の大学内や周辺地域を焦点においた大会である。大学内の学生、教員、職員の繋がり創出、それらの連携の強化が目的となっている。過去に大阪府立大学で1回、岩手県立大学で2回行われた。両大学とも大学周辺の地域や大学そのものをテーマとしたワークショップや交流会などを行った。現在、公立鳥取環境大学、高知県立大学において、それぞれ平成27年度大会の参加者が中心となり学内 LINK topos を企画、実施予定である。



図7、図8 大阪府立大学学内 LINK topos ワークショップ風景(左) 岩手県立大学学内 LINK topos ワークショップ風景(右)

④その他

公立大学学生ネットワークは、平成26年度大会後に各地区に地区代表をおくなどの体制を整え、地区ごとに会議や大学合同の企画イベントなどを定期的に行い、平成27年度学生大会の開催に向け活動を続けていた。



図9 公立大学学生ネットワーク MTG 風景

4 公立大学学生ネットワークの意義

大学の役割は主に「教育」、「研究」、「地域貢献」である。とりわけ公立大学は、地方自治体が設置・運営・管理するという性格から、地域社会での知的・文化的拠点として中心的役割を担ってきた。また将来、国内では人口減少と少子高齢化が急速に進展していくことが予想されている。そのような状況の下、地域社会は様々な課題に直面すると考えられており、公立大学の地域における社会・経済・文化・産業・医療・福祉等への貢献はより一層、期待されているところである。

公立大学生は課外活動という形で、地域社会に向けて様々な貢献を行ってきた。これらの課外活動を、大学の「地域貢献」を学生が学生の立場で行っているのだとすれば、この活動は、公立大学の存在意義の一翼を学生が担っていると考えることができる。

公立大学学生ネットワークは、平成 25 年度より「全国公立大学学生大会 LINK topos」を開催してきた。この学生大会には様々な地域貢献活動を行なう全国の公立大学生が参加してきた。参加学生は、各大学の地域貢献活動の事例や地域の知の拠点としての公立大学の役割などの学びを通じ、公立大学や地域を多様な側面から考えるきっかけを得てきた。

そして翌平成 26 年度大会においては学生だけでなく、教員と職員に対しても参加を呼び掛けた。立場の異なる学生、教員、職員と一緒に地域貢献活動やその課題について考えることによって相互の理解や交流を深めることができた。

また、大会に参加した学生が自分たちの大学に戻ってから生まれた地域貢献活動もある。上述したように、岩手県立大学では、平成 25 年度大会を契機に地域創造学習プログラムにおいて学生、教員、職員が協力して企画、実行する新しい体系が生まれた。他にも、神戸外国語大学と神戸市看護大学との協働、大阪府立大学でも新たな地域貢献活動が生まれた。これらは大会に参加したことがきっかけで、学生が広い視野を身につけ、それが学内にも波及し、地域貢献活動を始めることになった良い例である。「地域貢献」という公立大学の存在意義の一翼を担う学生にとって「全国公立大学学生大会 LINK topos」への参加は有益であり、学内にも良い影響を及ぼす可能性を秘めている。

以上のことなどより、大会を継続し、開催していくことは公立大学にとっても大変有意義なことと考えられる。

5 公立大学学生ネットワークの目的

公立大学学生ネットワークの目的は主に以下の 2 点である。

- ・各大学の地域貢献活動の事例や公立大学の役割などを学び、公立大学の存在意義を考え、意見交換すること。
- ・大会での学びを各大学や地域に還元させ、公立大学の地域貢献活動の一助とすること。

Ⅱ 平成 27 年度全国公立大学学生大会 LINK topos の概要

1 平成 27 年度全国公立大学学生大会 大会プログラム

《1 日目》 10 月 10 日（土） 愛知県青年の家

時間	内容	備考
16:30～17:30	愛知県青年の家集合 前泊者受付	受付終了後、各自ポスターセッションの準備へ
18:00～19:00	夕食	
19:10～20:30	参加者交流会 ポスターセッション	

《2 日目》 10 月 11 日（日） 愛知県青年の家

時間	内容	備考
9:30～12:00	ワークショップ 「地域の現状課題に対して、大学が一体となった解決施策を考える」 (テーマは以下の2つから参加者が選ぶ) ① 防災意識の啓発 ② 地域コミュニティの創造	
12:00～13:00	昼食	
13:00～13:50	「過去の大会で生まれた取り組みについて」 ①岩手県立大学 三浦春花氏、佐藤優氏、川原直也氏 「地域創造学習プログラムについて」 ②神戸市看護大学 岡本優花氏 「地域支援を行う学生団体の創設」	
14:00～15:00	シンポジウム 「名古屋市立大学の地域貢献活動について」 ①「Meisc の地域活動」 相澤勇人氏、吉川知伽氏、下地佑佳氏 ②「医薬看連携地域参加型学習における活動について」 茜部遼平氏	
15:15～18:00	ワークショップ 再開	
18:00～19:00	夕食	

19:00～20:45	アクションプラン発表会及び投票による優秀プランの選出	得票数が多かったアクションプランは学長・学生合同プログラムで発表する。
-------------	----------------------------	-------------------------------------

《3日目》 10月12日（祝・月） 名古屋市立大学

時間	内容	備考
8:30	愛知県青年の家出発	バスで移動
10:00	名古屋市立大学到着(予定)	到着後、ポスターセッション準備
11:00～12:00	学長・学生合同プログラム ・大会報告 ・優秀アクションプラン発表 ・学生ネットワーク実績報告	
12:00～13:30	ランチ交流会 ポスターセッション	
13:45～15:15	大会振り返り クロージング	
	解散	

2 平成 27 年度公立大学学生大会 活動内容とその成果

2.1 事前交流会

2.1.1 事前交流会の目的と狙い

- ・初めて顔を合わせる参加者の精神的な距離を縮めること
- ・他大学の活動を知ること、新しい知見を得ること
- ・地域貢献という同じフィールドで活躍する新たな仲間とのパイプ作り

2.1.2 プログラムの詳細

○あいさつ、大会要旨説明、公立大学学生ネットワークの団体紹介

○アイスブレイク

参加者全体でバースデーチェーン(ジェスチャーのみで、誕生日順に並ぶ)を行った

○ポスターセッション

参加者が普段、学内で行っている活動一枚のポスターにまとめて報告し合った。それぞれのポスターは自由に回覧できる。

2.1.3 参加者の感想

- ・各大学の地域活動を学ぶ、新たな視点があり、外からの視点というものを学ぶことができたと思います。
- ・他大学の様々な取り組みを見ることができ質問があれば聞くことができるので多くを見ることができました。
- ・各団体の活動内容を共有できる場としてすごく良かった。対話形式で良く内容が分かった。活動に対する相互の意見交換ができた。
- ・各大学、力を入れた作品が非常に多く、これからの地域貢献の良い参考となった。学生同士が教え合う(発表)することを魅力的だった。
- ・他大学・他地区の活動を知れた、そこから自分の大学や地域での活動のヒントになった。

2.1.4 事前交流会の成果

参加者の感想からもわかるように、ポスターセッションを通して参加者間で活発な意見交換がなされたと考えられる。また、参加者にとって自身の活動のヒントを得るとともに、同じ地域で、もしくは同じフィールドで活動する仲間と新たなパイプ作りの一助となったと考えられる。



図10、11 事前交流会でのポスターセッション風景(左) ランチ交流会でのポスターセッション風景(右)

2.2 ワークショップ

2.2.1 WSの目的と狙い

- ・WSを通して、自分にはない新しい発見や気づきを得ること
- ・立場や地域を超えた繋がりが地域課題の解決への可能性を持つことを体感すること

2.2.2 プログラムの詳細

○全体顔合わせ

あいさつ・大会要旨説明、ワーキンググループ委員の先生方のご紹介

○アイスブレイク

各チームで自己紹介(マインドマップを用いて行った)

○ワークショップ本番(以下、WS)

・WS 概要説明

・WS テーマの提示「地域の現状課題に対して、大学が一体となった解決施策を考える」

大学、学年が異なる学生、そして教職員で構成される5~6名を1グループとして、計13グループを形成した。また、今回のWSでは、① 防災意識の啓発、② 地域コミュニティの形成という2つのテーマを用意し、各グループはどちらかのテーマに分かれてWSを行った。

・アクションプランの立案

- ① 現状課題の書き出し (ブレインストーミングの方法に沿って付箋を使って書き出し)
- ② 解決したい課題の設定
- ④ 課題を解決するための企画を考案
- ③ 5W1Hに沿って企画をまとめる

・アクションプラン発表

各グループ、2分間で考案したアクションプランを発表した

・最優秀アクションプランの選出

参加者間の投票によって最優秀アクションプランを2グループ選出した

2.2.3 参加者の感想

- ・チームの雰囲気も良く、自分1人では思いつかなかったことをみんなで話し合えてよかったです。
- ・防災を色々な視点から考え、地域とどう連携し行えるのか、考えることができた。
- ・教職員さんも混ざって考えることで進行に慣れていなくても話が進めやすかった。
- ・いろんな分野の学生と交流でき、自由に考えて、楽しかった。
- ・全国から熱い学生が集まるので、刺激的だった。

2.2.4 成果

限られた時間の中でも、メンバーが協力し合い1つの企画を立案することで参加者は大きな達成感が得られたと考えられる。また、違う立場、地域の人とWSを行うことで新たな知見を得るとともに、そのような人達との協働の重要性を感じる事ができたと考えられる。



図12、図13 ワークショップ風景(左)ワークショップ発表会風景(右)

2.3 シンポジウム

2.3.1 シンポジウムの目的と狙い

- ・過去の大会を通して、生まれた活動について参加者に知ってもらう
- ・会場大学である名古屋市立大学で行われている学生、教職員が一体となった先進的な地域貢献活動について知る

2.3.2 プログラムの詳細と講演内容

- ・第一部 「過去の大会で生まれた取り組みについて」

① 岩手県立大学 地域創造学習プログラム

岩手県立大学で行われている課外活動の一環である「地域創造学習プログラム」(活動詳細は p5 を参照)の活動内容について講演した。

② 神戸市看護大学 地域支援を行う学生団体の創設

第一回大会に参加した神戸市看護大学の学生が中心となって、自身の大学で地域支援を行う学生団体を創設した、経緯と主な活動である「おなかまプロジェクト」(活動詳細は p6 を参照)の活動内容について講演した。

- ・第二部 「名古屋市立大学の地域貢献活動について」

① 「Melsc の地域活動」

名古屋市立大学の医学部生が中心に活動する学生団体である「Melsc」の団体の概要、そして主な活動内容である学生向けの心肺蘇生の実習内容を中心に講演を行った。

② 「医薬看連携地域参加型学習における活動について」

地域参加型学習とは名古屋市立大学の全学部を対象にした教育プログラムである。実際に学生が地域に赴き、地域の実情やニーズを知り、その課題解決に取り組むことで地域に根差した人材育成を目的としている。今回の講演では、医学部の学生が行ったプログラム内容とその成果について講演した。

2.3.3 参加者の感想

- ・過去のアクションプランが実際に行われていたということが分かった点。
- ・LINK topos での活動が岩手県立大学で具体的な地域貢献の活動につながっていることが理解できた点。
- ・他大学の学生が地域貢献のために行っていることを知ることができた。
- ・実際にやっている事例はおもしろい。
- ・他大学の事例が聞けて、勉強になりました。1 テーマがそこまで長くなくて、聞きやすかったです。

2.3.4 成果

先進的な取り組みや他大学の活動を深く知ることで参加者は新たな知見を得たようである。



図 1 4、1 5 岩手県立大学学生による講演(左) 名古屋市立大学学生による講演(右)

2.4 学長・学生合同セッション及びランチ交流会

2.4.1 学長・学生合同セッション及びランチ交流会の目的と狙い

- ・公立大学のミッションである地域貢献活動に学生の意見、考えを寄与すること
- ・全国から集まった学長先生に対して、本大会の重要性と継続性を訴えること

2.4.2 プログラムの詳細

○大会報告

学生代表の井上幹太(兵庫県立大学)より報告

○優秀アクションプラン発表

WS 内で参加者間の投票によって選出された 2 グループがアクションプランの発表を行い、本セッションに参加された学長から意見・感想を仰いだ。

○学生ネットワーク実績報告

学生大会より派生した活動例として「地域創造学習プログラム」について岩手県立大学の学生が発表を行った。

○ランチ交流会、ポスターセッション

昼食休憩として、学生大会の参加者と学長会議に参加した学長が一緒になりランチを食しながら交流を行った。その後、ポスターセッションを行い、学長に向けて各公立大学の地域貢献の取り組みについて自由に発表、意見交換を行った。(※ ポスターセッションの内容は事前交流会と同一のポスターを用いた。)

2.4.3 参加者の感想

- ・他大学との学長や職員さんと交流できたのが良かったです。
- ・学長さんの前で発表するという普段ではありえないような経験ができた。自分の大学の学長と直接、話しをする機会が持てた。
- ・このようなプログラムに参加するのは初めて、学生が自分の意見をはっきりと示してとてもよかったと感じ、刺激を受けました。
- ・普段、学長先生と話せる機会はなかなかないので、学生の思っていること、やってみたいことを直接伝えられたことでつながりを強めるきっかけとなった。
- ・一緒になって考えて下さったので、自分たちに何が足りないのかわかった。

2.4.4 成果

本セッションに参加されたある学長から「今後も学生と一緒に学長会議をやりたい」「次は学長会議のオープニングを学生に任せてはどうか」といった意見を頂いた。学長の中で本大会に対する理解が広がりつつあることが認識できた。また、参加者の学生にとって普段、話す機会のない学長に直接、自分たちの活動を報告することでモチベーションの向上に繋がったと考えられる。



図15、16 学生代表による大会報告(左) ランチ交流会風景(右)

2.5 大会を通して

2.5.1 大会を通しての参加者の心境の変化(参加者の感想より)

- ・人とのつながりをますます感じました。
- ・自分の中でやりたいことと思っていることと大学に戻ってから、これから企画していきたいと思いました。
- ・地域で活動するって何だろうとすごく思っていたのですが、周り(他の大学)からヒントを得たりできて、モチベーションがかなり上がっています。
- ・様々な取り組みをぜひ大学でも展開したい。
- ・発表することが苦手で大嫌いでしたが、周りの人が「楽しい発表したい」「自分が成長したい」と話しているのを聞いて発表することが楽しむものになった。

2.5.2 大会を通しての成果

まずは、本大会を通して多くの参加者が各々の大学内では得られない新たな知見や経験を得たことである。ある医療系学部の学生は「医療に携わっていく学生として、“患者さん”としてではなく“地域に住む生活者”としての視点を持つことができた」との感想を述べている。また、ある職員からは「こんなにも、公立大学の意義を理解し、地域貢献活動に従事している学生が多くいることに驚いた。そんな学生と交流できて良かった。」との感想を述べている。そのほかにも、学部や学生、教職員に関わらず、参加者にとって地域に向き合う姿に大きな心境的な変化・成長が窺えたので、別紙付録の「平成27年度全国公立大学学生大会アンケート集計結果 項目(21)」を参照していただきたい。以上のように、本大会は、学生にとって、これから地域の一員として、その地域の将来を担うための「地域社会へのまなざしや姿勢」を深める良い機会となった。かつ教職員においても、そのような学生らに触発され、共に学びを深める機会となった。

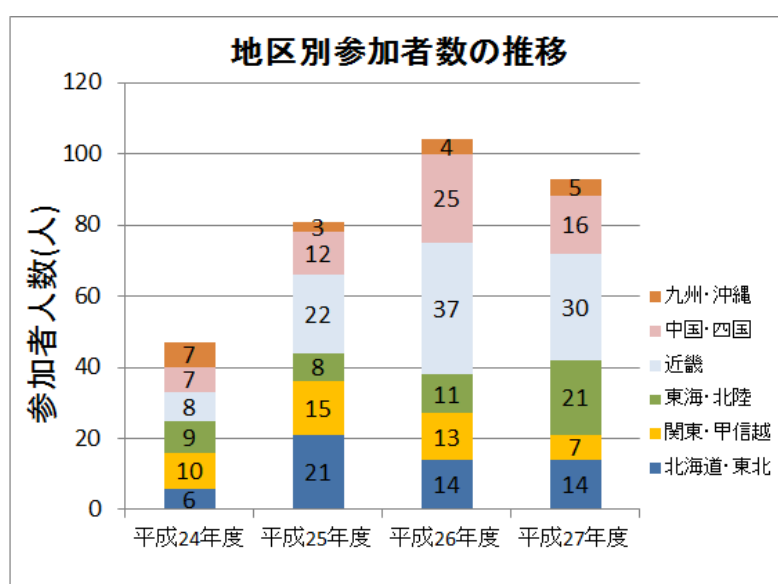
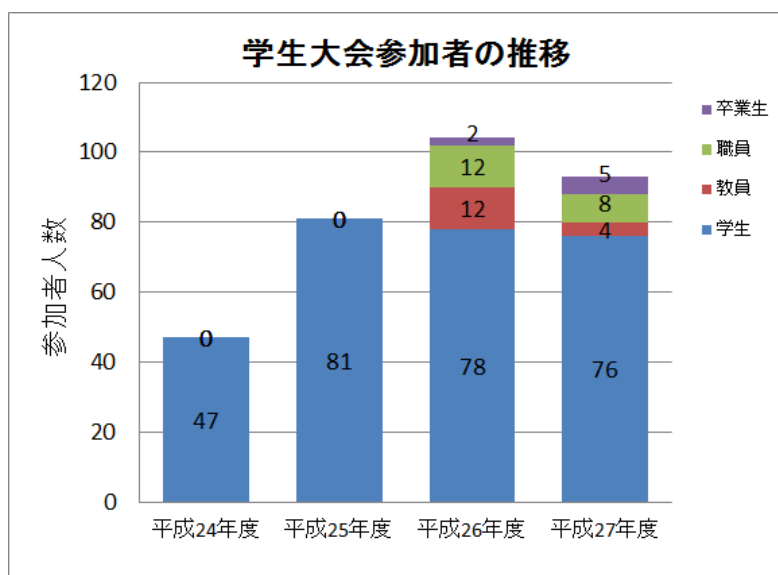
次に、地域を超えた繋がりが創出されたことである。学生を含め参加者の多くは、公立大学としての意義を深く理解しており（アンケート集計結果 項目(19)より窺える）、かつ地域に対して率先的な活動を行っている。そのような参加者の、地域を超えた繋がりが創出されることは普段の状況では起こりえない希なことである。また、そのような地域を超えた繋がりがきっかけとなって、それぞれが各大学に帰ったあとも、活動に対するモチベーションの維持や向上に繋がる。

以上が本大会で得られた成果である。本大会は、公立大学の学生及び教職員が公立大学の使命とは何か、そしてそのために何をすべきかといった学びを深めることができる場である。さらに、各公立大学の存在価値を高めるための、非常に意義深い大会であるといえる。したがって、本学生大会を継続し、そして更に発展させることが重要と考える。その点については「5. 全国大会の今後の展望について」に改めて記す。

3. 参加者の対象と推移

今回の全国公立大学学生大会には地域貢献活動や研究を行っている学生団体、サークル、ゼミ等の学生、もしくはそれらに興味を持つ学生、教員、職員が参加した。また過去の公立大学学生大会への参加者数は、平成24年度は24大学47名、平成25年度は34大学81名、平成26年度は33大学104名と推移している。そして、平成27年度は27大学93名が参加した。また、参加者数とその内訳について、地区別参加者数を以下にまとめた。

今年度も100名近い参加者が全国から集まった。大会の、今後の継続開催の必要性を強く感じさせる結果となった。



4. 次年度以降の学生大会開催に向けての課題と要望

① 学生大会の旅費、宿泊費について

参加者の中には参加費を一部、もしくは全額自己負担して参加している参加者がいる。参加者にとって参加の障害となっている経費の自己負担を少しでも軽減するため、各大学で旅費、宿泊費の支援をお願いしたい。具体的な支援額の指標として、例年の各大学の派遣人数である学生2名、教職員1名を目安に検討していただきたい。

② 学生と学長間の交流の形態について

第一回大会、第二回大会では学生・学長間の腹を割った交流は学長会議の（夕刻以降、次のプログラムのない）懇親会であった。今年度の第三回大会では、ランチ交流会として学長会議のプログラムの昼食休憩を利用して交流した。しかしながら、前後のプログラムの関係より第一回、第二回大会に比べて学長と学生の十分な交流時間が持てなかった。また、各参加者が着席し自由に移動しながら交流できなかった。そのため、次回以降では学生・学長の交流は従来通り学長会議の懇親会で実施していただくようお願いしたい。

③ 本大会の周知、広報について

本大会について広く他の教育機関や大学へ周知、広報するため、学生ネットワークのHPのリンク先を各公立大学のHPに掲載していただきたい。また、本大会に参加した大学は、その大会の要旨や参加した学生の感想等を大学HP上に積極的に掲載していただきたい。

5. 全国公立大学学生大会の今後の展望について

まずは、全国すべての公立大学の学生が本学生大会に参加することを目指したい。本大会は、公立大学の使命である地域貢献において大きな役割を果たしており、学部や地域に関わらず公立大学人にとって極めて重要な意味を持つ大会となっている。そのため、現状の参加状況に甘んじず、参加大学数のさらなる向上を目指していきたい。

次に、地区大会の実施である。これまでの全国公立大学学生大会 LINK topos のみならず、7地区それぞれ(北海道・東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄)で地区大会を実施することで、地区特有のテーマでのワークショップ交流に基づいた参加者同士の繋がりやプランの還元性や実践性の強化を図りたい。また、地区大会で各地区特有のテーマでワークショップを行い、そこで得られたアクションプランを全国大会で発表した上で、さらなる洗練化を目指すといったように、地区と全国を結ぶような大会の開催形態を検討していきたい。

以上、2つの目標については、この先5年をめどに地区大会の実施、10年をめどに全て公立大学の参加を達成目標として、全国公立大学学生大会を継続・発展させていきたい。

6. 謝辞

平成 27 年度全国公立大学学生大会 LINK topos の開催に際して、ご指導ご支援を賜りましたワーキンググループ委員の先生方、公立大学協会事務局職員の皆様、そして会場運営に協力して頂きました名古屋市立大学の職員の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で 3 年目となりました、本大会も盛況のまま終わることができたのは、参加して頂きました学生・教員・職員・学長の皆様の協力と理解があつてこそだと感じております。改めて協力して頂いた多くの皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。未熟な部分、至らない部分も多くありますが、今後とも全国公立大学学生大会 LINK topos ならびに公立大学学生ネットワークへご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

平成 27 年度公立大学学生ネットワーク代表
兵庫県立大学 4 年
井上 幹太

7. 付録① アクションプラン概要一覧

※班番号が①～⑤は「防災意識の啓発」、⑥～⑩は「地域コミュニティの創造」をアクションプランのカテゴリーとしてアクションプランの立案を行った。

班番号：① 企画名：楽しく始める！！

地域で楽しいイベントを企画し、それに多くの人々に参加してもらうことで防災意識を持ってもらうというものである。具体的なイベントとして、「親子でサバイバルキャンプ」(地域の避難所での1日防災キャンプ)や「防災グッズDIYワークショップ」(手作り防災・避難バッグを作成するためのワークショップ)などを行う。

班番号：② 親子でチャレンジ防災！

災害に対する意識・関心の希薄化を防止するために、親子や地域住民合を巻き込んだ防災意識の啓発イベントを実施する。企画は1日終日通して行い、AED実習や町歩き、非常食を用いた昼食や災害時を想定したリアルな体験学習を行う。

班番号：③ 企画名：0 to 1

年間を通した防災イベントを大学で企画することで、災害が起きた際に中心となって学生が動けるように意識を変える(意識レベルを0から1へ)という企画である。具体的な企画として、非常食ランキングやワークショップ、被災地派遣などである。

班番号：④ 企画名：お兄さんお姉さんといっしょ！

防災訓練に参加する人が少ないといった問題点から、学生が主体となって防災訓練を行う。具体的には、地域のウォーキングを行い、防災マップ作りやポイントラリー、避難訓練を行い年間通して、楽しみながら防災意識を啓発できる活動を行っていく。

班番号：⑤ 企画名：あなたは大丈夫？

多くの人は災害に対しての危機感やイメージが希薄である。そのため防災意識を持ってもらうために、無意識に防災意識を持つ習慣を作っていく。そのために、その場できる防災講習会を行い参加者全員で会場の避難経路を確認するなどして、ごく短い時間を防災に投資する意識づけを行う。

班番号：⑥ 企画名：Hello Happy Life Stage

～ライフステージに沿った課題の発掘と支援～

日本の合計特殊出生率を目的に、「出産」への不安解消に向けてライフステージに沿った課題の発掘と支援を行う。そのために、具体的なニーズ調査を行うために学内では事前学習や調査項目の作成、学外では行政と連携、学習会を行っていく。

班番号：⑦ 企画名：来ないならいく！！

地域コミュニティの課題について、地域コミュニティに若者と高齢者の間にある中間世代を巻き込む方法を実施していく。そのため、学生が媒体となって中間世代を地域へ巻き込むため企業に直接、地域の農家や酒屋の商品を売りに行く。その過程の中で、中間世代とのコミュニケーションを作る機会を作り、地域への参画を促すための一助としていく。

班番号：⑧ 企画名：麺王国 エンドレスでつなぐエンドレス NETWORK

岩手県花巻市を対象にしたアクションプランである。地域の特産物である「わんこそば」に着目し、小学生と地域住民と一緒に蕎麦の栽培から、わんこそば作りを行うことで長期間に渡る世代間交流を行う。

班番号：⑨ 企画名：大学間のネットワークの形成

学生、大学、地域を巻き込んだ大学間のネットワークを作り地域の活性化を行う。このネットワークを通じて各地域・地区の問題点を共有して、また、その問題を解決するためのアイデアを違いに出し合ったり、時には企画を実施したりして地域の課題解決への一助とする。

班番号：⑩ 企画名：未来ガエル～多地域との価値を生み出す大学間交換留学～

人口減少による財源・地域資源における多くの問題となっており、特に中山間地域は、その問題が著しい。そのため、大学に地域交換留学制度を採り入れ、地域の魅力を学生が発見して、発信することで、人口の流失の低下そして流入の増加につなげる。

班番号：⑪ 企画名：やっぱり田舎が好きだった

地域の少子高齢化・過疎化に伴い世代を超えた交流を目的に、空き家を利用した魅力ある場の創出・人の繋がりを作る場の創出を行う。具体的には地域の農家が育てた野菜を使った飲食店、販売所、宿泊施設として利用する。そして学生の専門分野を活かした複合施設(建築学科によるリノベーション、栄養学科によるカフェなど)も併設する。

班番号：⑫ 企画名：まかないなかま

学生のふれあいの場を提供する学生団体を作る。

お年寄りと一緒に野菜を作り，その材料を用いた郷土料理と一緒に作って食べることで，地域のお年寄りと交流を持つことが目的である。

班番号：⑬ 企画名：集活

地域に対して何かしたいけれど，できていない学生と手を貸してほしい地域の人が出会う場を作っていく。そのために学生がホスト役となり，広報，出会いの場づくり、マッチング，アフターフォローまでを行い，学生と地域との橋渡しを担っていく。

8. 付録③ 参加者名簿

※ Web掲載版では省略

参加者数 93名

内訳 学生76名 教員4名 職員8名 卒業生5名

27大学

9. 付録④

平成27年度公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会について
委員

	所 属 ・ 役 職	氏 名	専 門 分 野
主 査	兵 庫 県 立 大 学 教 授	森 永 速 男	地球物理学
委 員	岩 手 県 立 大 学 高等教育推進センター長	佐 々 木 民 夫	日本文学
〃	名 古 屋 市 立 副 学 長	伊 藤 恭 彦	法学
〃	高 知 県 立 大 学 教 授	清 原 泰 治	体育学
〃	北 九 州 市 立 大 学 教 授	田 部 井 世 志 子	英文学
〃	公立大学協会事務局長	中 田 晃	

10. 付録⑥ 次年度の全国公立大学学生大会 LINK topos

平成28年度全国公立大学学生大会 LINK topos について、次回会場は北九州市立大学にて学長会議と併設して行うことになった。以下に詳細を記載する。

日時 2016年10月(予定)

場所 北九州市立大学(予定)

大会の具体的な告知、広報については追って団体 HP や各公立大学の公立大学協会担当者に向けて等で行う。

11. 付録⑦ 公立大学学生ネットワークの今後の展開について

11.1 組織幹部体制について

平成28年度における本ネットワークの幹部については、代表を小笠原果美(岩手県立大学3年)、副代表を片山直也(大阪府立大学3年)に任命した。代表、副代表を中心に学生大会の運営、地区でのミーティングの開催・幹旋を行っていくとする。

11.2 情報共有、発信について

- **Facebook** ページについて

昨年に引き続いて、学生大会で作成したアクションプランや、出会った他大学の学生との協働、活動などを誰でも発信できるようにする。今後とも活動ノウハウの共有や情報交換を活性化し、ネットワークの可能性を高めていきたい。

- **HP** の活用方法

HP を使い定期的な情報発信を行う。ネットワークの活動等を広報していく。具体的な発信内容としては地区ミーティングの様子や参加しているメンバーの大学や活動紹介等を検討している。

11.3 地区での集まりについて

現在、本年ネットワークでは7つの地区(北海道・東北，関東甲信越，東海・北陸，近畿，中国・四国，九州・沖縄)に分かれており，それぞれの地区から学生が集まっている。そのため，各地区内の学生たちにおける集まりである地区ミーティングを積極的に開催していきたい。地区ミーティングでは，その地区内のメンバー間でそれぞれの活動に対する意見交換・交流や地区に即したテーマを中心に行うことで，地域の課題解決への一助としたい。また地区ミーティングの開催については，代表や副代表もしくは，その地区のメンバーが中心となって開催していく。

平成27年度 全国公立大学学生大会LINK toposアンケート 要旨

1. 目的

- ①本大会の参加者から、大会プログラムへの意見・要望を把握すること
- ②本大会の参加者の大会通しての心境の変化を調査することで、本大会の意義と有効性について確認にすること

2. 調査時期

平成27年10月12日(月)本大会のクロージング後に実施した。また、途中退出者に対しては、後日メールにてアンケートを送信し、記入したのち回収した。

3. 調査対象

本大会のプログラム参加した全参加者である学生、教員、職員

※ 一部のプログラムに参加した参加者も含む

4. 調査対象者及び回収結果

	調査対象者	有効回答数
学生	76	70 (92.1%)
教員	4	3 (75.0%)
職員	8	6 (75.0%)
卒業生	5	5 (100%)
合計	93	84 (90.3%)

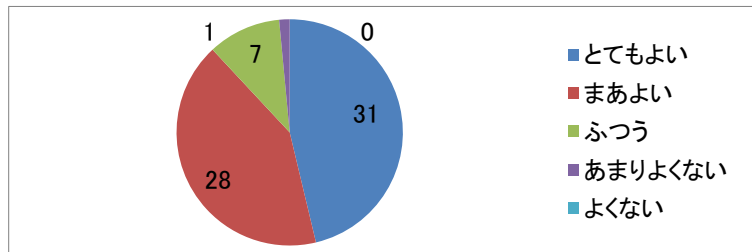
平成27年度 全国公立大学学生大会LINK toposアンケート 集計結果一覧

10日

(1)事前交流会内のアイスブレイクの内容はどうでしたか

集計

	人数(人)
とてもよい	31
まあよい	28
ふつう	7
あまりよくない	1
よくない	0
合計	67



(2)アイスブレイクで特に良かった点を教えてください

コメント

・ジェスチャーであってもコミュニケーションができていたところが良かったと思います。言葉を使わず名刺交換が始まったところもおもしろかったです

・目と手ぶりに集中してコミュニケーションを取ることはなかなかないので、おもしろいと思いました！

・それぞれの目を見てコミュニケーションをとる必要があったので、うちとけやすかった

・司会の方の進め方というか話が面白かったという点と、ジェスチャーだったので必然的に自分から相手に歩み寄る形になる点が良かったと思います

・非言語的コミュニケーションのみで交流を図るという点。また、達成感や一体感が生まれた点

・なんとなく気持ちがあほぐれた気がしました

・ルールもわかりやすく、誕生日の話で会話のきっかけになった

・皆さん出身がそれぞれ違うので、言葉を使った方法だと方言などの関係で思い通りに意図が伝わらないことが考えられましたが、そのような心配もなくコミュニケーションが図れたことがよかったです

・大人数であったにも関わらず皆が一体となることができた

・内容がシンプルで分かりやすかった、言葉を使わないことが逆に接近することができたと思う

・自己紹介のアイスブレイクは共通点を見つけやすくて良かったです

・参加者が緊張している中で、誕生日順に並ぶアイスブレイクはジェスチャーだけでできるので、声に出して話す必要がないという点で良かった

・ジェスチャーだけだったので普及とは違った緊張感があったため、達成したときのみんなが1つになれた感じがした

(3)改善点があれば教えてください。

・声を発しないというルールだったので、ゲーム終了後の会話がはずみ辛いなと思いました

・時間があれば、その前後や月ごとのグループで自己紹介などしても良かったと思う。

・部屋に入る前に何かあったらもっとよかったのかもしれないと思いました。部屋に入って、自己紹介をし、部屋のメンバーで食事をし、事前交流会という流れだったので、すでに少し他のメンバーと交流していました。

・もう1つほど、名前と顔がわかるようなアイスブレイクがあると、特定の人のみであっても仲良くなれたのかなと思います

・最初なので話をできる(コミュニケーションとれる)アイスブレイクの方がよいと感じた

・個人のことをもっと知ることができる質問ならもっとよかったかもしれない(あだ名50音順等)

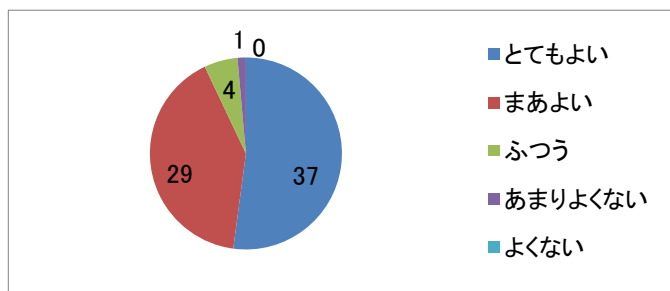
・コンテンツは良かったがもう少しタイムマネジメントと笑いを組み込めたらよかった

・若干間延びしてしまったり、互いのコミュニケーションがとりづらかった

(4)ポスターセッションはどうでしたか

集計

	人数(人)
とてもよい	37
まあよい	29
ふつう	4
あまりよくない	1
よくない	0
合計	71



(5)ポスターセッションで特によかった点を教えてください。

コメント

・各大学の地域活動を学ぶ、新たな視点であったり、外からの視点というものを学ぶことができたと思います。
・25分という時間区切りがちょうどよかったです
・他大学の方と熱い話ができて、様々な視点から活動している地域に入っていけることを知れてよかった
・自由に意見交換できたこと
・自分の興味のある活動を選んで話を聞いた
・それぞれの大学によって、行なっている活動の分野が様々で面白かった。
・初対面の学生との関わりをもてる。また、ちょうどよい時間設定でやりがいがあった
・他大学の発表が知れた。ブースでオープンな雰囲気が良かった
・他大学の様々な取り組みを見ることができ質問があれば聞くことができるので多くを見ることができました
・それぞれの特徴が工夫されてまとめられていた
・分からない点に関してはその場で答えてもらえるのが良かったです。
・各団体の活動内容を共有できる場としてすごい良かった。対話形式で良く内容が分かった。活動に対する相互の意見交換ができた
・去年よりスペースがあって回覧しやすかった
・各大学、力を入れた作品が非常に多く、これからの地域貢献の良い参考となった。学生同士が教え合う(発表)することを魅力的だった
・他大学・他地区の活動を知れた、そこから自分の大学や地域での活動のヒントになった
・他大学の取り組みを聞けたり、自分たちの活動を改めて振り返ることができた

(6)改善点があればおしえてください。

コメント

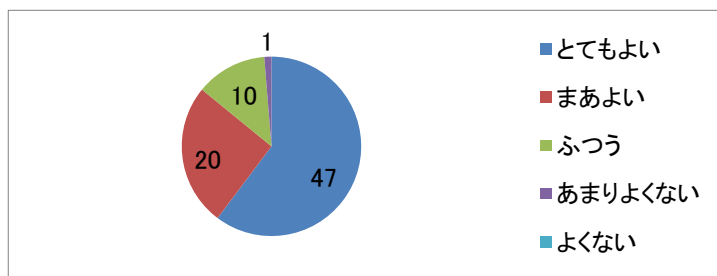
・ポスターを設置する位置的に人がいきやすい場所といきにくい場所があったのかなと思いました
・途中から入っていくのが難しい学生もいたので、そこをサポートしていけたら・・・
・大学を半分に分けてもよかったかも
・始める前に何枚かレスポンスシート(良い所限定)を配布して聞き終わったそのグループに渡すようなことをしてもおもしろいかも
・どうしてもポスターを貼ってある場所が端のほうだと目に留まりづらく行きづらい
・会場のセッティング。参加数が少なかった。
・今回のように舞台がある場合は舞台を使わずにみんな同じ高さでもよかった
・1つの大学の説明を受けれる時間を設けてくれると、よりたくさん大学の説明を受けれたと思います。
・ポスターセッションが始まる前にポスターを見る自由時間がありましたが、そこでポスターセッションが始まってしまったように感じました。
・初参加だったので、どういう形式かわからなかったでの事前に例をもらえるとよかった
・話の途中から参加したら、あまりよくわからなかったなので、時間をくぎってしてくれるとやりやすかったかなと思います

11日

(7)「防災意識の啓発」「地域コミュニティの創造」というテーマ設定はどうでしたか。

集計

	人数(人)
とてもよい	47
まあよい	20
ふつう	10
あまりよくない	1
よくない	
合計	78



(8)ワークショップで特によかった点を教えてください

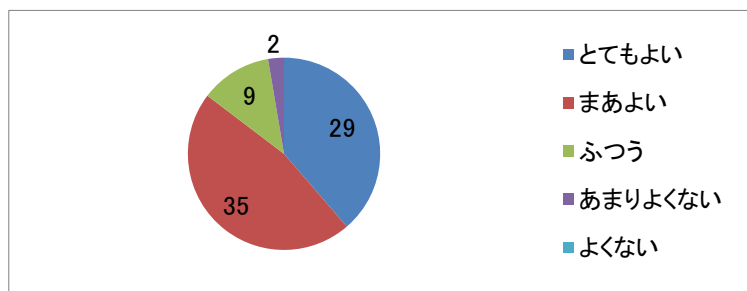
- ・チームの雰囲気も良く、自分1人では思いつかなかったことをみんなで話し合えてよかったです
- ・防災を色んな視点から考え、地域とどう連携とどう連携し行えるのか、考えることができた。
- ・プログラムが組まれていてゴールが分かりやすかった
- ・自分だけでは出ない発想や考え方に触れることができとても刺激になった
- ・ワークショップのルール設定がしっかりしていた点
- ・教職員さんも混ぜて考えることで進行に慣れていなくても話が進めやすかった。
- ・他のグループとの意見交換！あの場がなかったら、あの発表の形にできていなかったグループが出てもおかしくなかったと思います！
- ・いろんな分野の学生と交流でき、自由に考えて、楽しかった。
- ・他大学の男女がまじりあえたグループで行うことで本当に色々な案が出せたし、部屋も違う本当に初対面の人とももの考えることもできるということが面白く楽しかったです
- 今回のワークショップでは地方の公立大学の学生や被災地に住む学生も一緒にグループで、それぞれが今大学のある地域で感じていることや行っていること、これから考えていることを知ることができました。
- ・このテーマ(防災意志の啓発)は特にLINK toposにもっと重要なテーマであると思う
- ・困っている時に運営側の人たちが助言をくれた点
- ・企画するということがあまりなかったので、とてもいい機会だと思った
- ・まとめるツールがある程度用意されていたので、進行しやすかったと思う。
- ・全国から熱い学生が集まるので、刺激的だった
- ・少人数の方が意思疎通しやすいのでしっかり全員の意見を聞くことができて良かった

(9)改善点があれば教えてください

- ・ゴールを示した方が良かったかも
- ・発表の仕方(模造紙を使う)を統一した方が良かったと思います
- ・シンポジウムをはじめにやってワークショップを続けてできればよかったのでは
- ・途中で帰る人が固まった班があったので、そこを把握をして班分けをするべきだと思った
- ・アクションプランの発表で質疑応答の時間が欲しいと思った
- ・地域や対象を設定するのに時間を要したので、事前に用意しておいて方がいいかもしれない
- ・全ての班で模造紙を使うような発表ができた方が分かりやすかった
- ・縛りがなさすぎたことが難しかった(ターゲット、対象地域、人々、年齢層)
- ・リアリティを追い求めるのか、夢を追い求めるのかわからなかった
- ・発表時間がもう少し欲しいです
- ・テーマが大きすぎて、少し想像しづらい部分がありました
- ・ここに来ている団体が全てこのテーマに準じているかが不明
- ・ファシリテーターまで行かなくても司会役をおいてもらうなどもう少し時間管理がうまくいったかと思えます
- ・単純にパワポが見つらなかったので、何をしていたかわからない場面があった。
- ・まとめた3枚の紙を何かでプロジェクターで映して発表とかにすればもっと見せやすかったと思えました

(10)講演の内容は怎么样了か

とてもよい	29
まあよい	35
ふつう	9
あまりよくない	2
よくない	0
合計	75



(11)シンポジウムで特によかった点を教えてください

- ・自分とはなかなか縁のない分野の発表を聞いて良かったです
- ・各大学の取り組みを知れて良かったです。また鋭い質問があり、自分達の活動に当てはめて考えられるので為になりました
- ・ジャンルが幅広かったこと
- ・他大学の活動が詳しく聞いて良かった
- ・学内LINK toposというのはとても面白いなと思った
- ・過去のアクションプランが実際に行われていたということが分かった点
- ・各地域での活動かが詳しく知れて良かった
- ・LINK Toposでの活動が岩手県立大学で具体的な地域貢献の活動につながっていることが理解できた点。
- ・医療系の話でしたが、普段関わることのできない話だったので、おもしろかったです。心臓マッサージの大切さが分かりました。
- ・医療系だけでなく、総合大学での取り組みを知るよい機会となりました。
- ・他大学の学生が地域貢献のために行っていることを知ることができた
- ・スライド構成が上手
- ・LINK toposの成果が見れたと思います
- ・実際にやっている事例はおもしろい
- ・他大学の事例が聞いて、勉強になりました。1テーマがそこまで長なくて、聞きやすかったです
- ・まったく馴染みのない、医学部とかの活動も知れた。実際に実行している例を見て、本当にできることをPRLしたこと

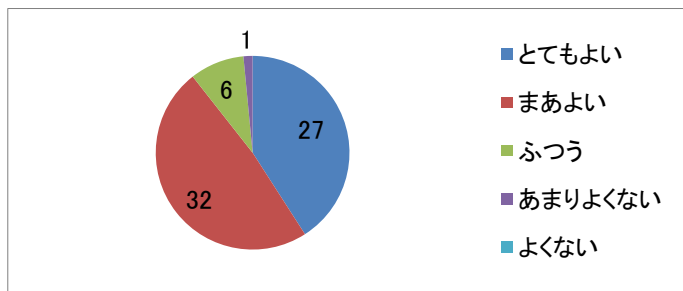
(12)改善点があれば教えてください

- ・第2部の発表時間がちょっと長いなと思いました
- ・色々な分野の学生が集まっているので、そこを活かせるともっと良いのかなと思いました
- ・質問の数の制限を設ければ良かった
- ・発表の方法(もっと相互作用の形でもよいのでは)
- ・何度もPCとプロジェクターのつなぎ直すのは正直、時間の無駄だと思った
- ・医療系の話に偏っていて、他の学部の学生として話が分かりづらく付いていけないようだったので、もっと多様性があればさらにいいなと思います
- ・発表者について、なぜその内容でその人が発表するのか、参加者に明確に伝えることが必要だと思いました。
- ・個人的にはシンポジウム自体なくてもいいのかなと思った。
- ・ポスターセッションと同じように単なる発表だと感じてしまった。
- ・ワークショップの間ではなくてもよいと思った
- ・シンポジストの選定と打ち合わせ
- ・活動を紹介するならば、何のためにやるのか、その対象者はどうなりたいのかをもっと練ったものにしてほしかった
- ・机がほしかったです(メモしにくかった)
- ・発表スライドによっては字が小さすぎて見にくかったです

(13)学長・学生合同プログラムの満足度について教えてください

集計

	人数(人)
とてもよい	27
まあよい	32
ふつう	6
あまりよくない	1
よくない	0
合計	66



(14)学長・学生合同プログラムで特によかった点を教えてください

- ・他大学との学長や職員さんと交流できたのが良かったです
- ・学長の話聞いた
- ・学長と話す機会がそこまでなかったので、色々な想いを聞いてよかった。
- ・学長と学生との繋がりが見えてよかった
- ・学長さんの前で発表するという普段ではありえないような経験ができた。自分の大学の学長と直接、話しをする機会が持てた
- ・このようなプログラムに参加するのは初めて、学生が自分の意見をはっきりと示してとてもよかったと感じ、刺激を受けました
- ・普段、学長先生と話せる機会はなかなかないので、学生の思っていること、やってみたいことを直接伝えられたことでつながりを強めるきっかけとなった
- ・アクションプランが実現する話になりそうな所
- ・一緒になって考えて下さったので、自分たちに何が足りないのかわかった
- ・プレゼンがとても良かったです。聞きやすくわかりやすく、上手だなあと感じました

(15)改善点があれば教えてください

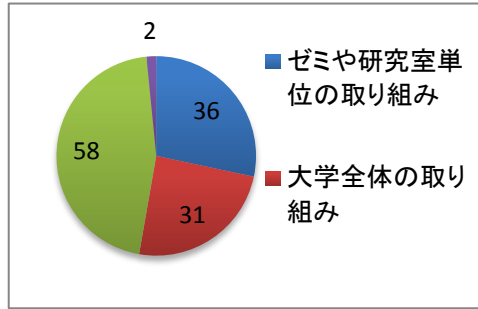
- ・もう少し交流してみたかったです
- ・学長さんだけで固まって昼食を取ったりしていたので席の配置を学生○人、学長△人というような感じで決めたらどうかと思いました
- ・学生の発表を3団体前日にも見ていたので、もう1度見ることに意味はあると思うが、何か工夫があればうれしいと思いました
- ・学長先生方からもう少し、ご意見をいただくと学生もやる気が出るのでは
- ・パネルディスカッション等があればおもしろいのでは？
- ・発表者は、事前に集まってスムーズに入れ替えができる位置に座っていればよかったかなと思いました。
- ・初めての人には何が何だかわからない場だったのではないかと思います。
- ・先生たちがどのような体制でこの組織をサポートしていて、この場に何を望んで、今後どう関わっていくのか、何のためのこの場なのかということなどがもう少しわかりやすい言葉で聞けるとよかった。
- ・シンポジウムの内容をもう一回聞く意味が不明確であった。その時間を他の時間に回すことにできたのではなかと感じた
- ・全体を通じて時間はある程度守りましょう遠方から来る人に配慮していただき(特に帰り)
- ・ポスターを貼る間隔が狭かったです。あと、中国・四国ブロックの席が足りなくなっていたのが気になりました

全体を通して・その他

(16)あなたの大学では、学生の関わる「地域活動」が行われていますか？行われている場合、それはどのような形態ですか？ ※複数回答あり

集計

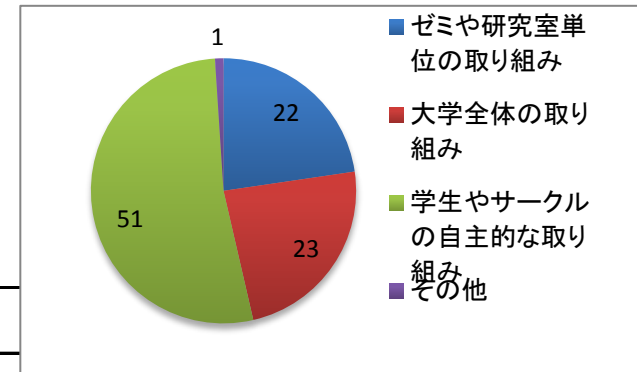
	人数
ゼミや研究室単位の取り組み	36
大学全体の取り組み	31
学生やサークルの自主的な取り組み	58
その他	2
いいえ	0
合計	127



(17)上の設問に「はい」とお答えになった方にお聞きます。あなたは上記の活動のどれに関わっていますか？ ※複数回答あり

集計

	人数
ゼミや研究室単位の取り組み	22
大学全体の取り組み	23
学生やサークルの自主的な取り組み	51
その他	1
合計	97

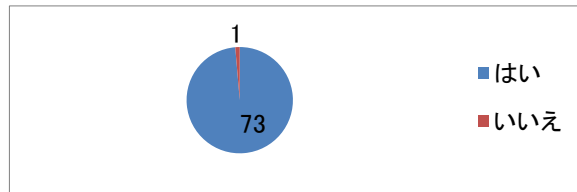


その他の意見

・学外での学生団体やNPOの活動

(18)公立大学及びその学生は「地域活動」に関わるべきだと思いますか？

	人数(人)
はい	73
いいえ	1
合計	74



(19)上記の回答について、その理由をお書きください

はいの意見

- ・学生だからこそできることも多いと思うし、地域活動に学生の視点も取り入れていくべきだと思います
- ・公立大学は地域に根付いた大学であるべきであるし、地域活動をすることで学生の学びや地域の活性化など相互にメリットがあるから
- ・地域に密着し、地域と人と向き合うことが、公立大学の学生にできることだと思ったため
- ・公立であることの意義を踏まえて、地域貢献は大学の意義であるため
- ・地域活動に参加し、地域と関わっていくことでコミュニティが広がり新たな視点で見られるだけでなく多くの発見がある
- ・地域活動に関わることで大学生活では得られない刺激を得ることができた
- ・自分の住んでいる地域に関わることで自分のプラスにもなるし、地域のプラスにもなるから
- ・地域のつながりが希薄になってきていると言われる時代の中で、学生が率先して地域の中で関わりをもつことで、様々な世代間での交流や関連する施設・機関との関わりが生まれるから。
- ・非常時の助け合いであったり、お互いに必要なときに頼りあえる地域のつながりができて行くのではないかなと思うから。
- ・公立大学の設置の経緯が地域にあるのだから、地域を学びのフィールドにしない方がおかしい
- ・公立大学の意味というのは、研究を自治体の政策や自治体をよくするための組織であるため
- ・地域活動は自主的に関わるからこそその効果が得られるのだと思っているので、強制的に関わる「べき」だとは思わないから。
- ・大学的には地域の方々から良い印象を得ることができる。地域と関わることで授業では得られない知識や経験を得ることができる
- ・これからの社会の担うのは我々だから

(19)の続き

- ・地域に関われば関わるほど、ネットワークが広がり、学びの可能性も広がると思うから
- ・今日のWSのように属性の異なる方とのつながりで、できるアイデア、成果などプラスの効果が考えられるから
- ・今住んでいる地域活動に関わることで自分の生まれ育って地域の良さや問題を再確認する機会となるから
- ・今回の体験も含めて本当に自由に動ける学生の存在の大切さのようなものを感じました。
- ・国立の大学と違い、公立大学は地域密着型大学という印象があるので、地域の活動に参加することは必要不可欠である。

- ・学校について知ってもらえる。開けた校風に近づく
- ・公立大学は地元で根差した活動を一番しやすいと思うから
- ・公立大学や学生というのは関係なく誰もが地域に関わっていくべきだと思うが、特に大学という場合は学生力や知が集まる場なので広げる拠点となっていくべき
- ・何かをする上で地域が関わっている以上、大学だけではできなくて、それをするには普段からの地域と関わることに、それを考えることが必要だと感じた

- ・関わりと様々な成長が得られるが強制ではない
- ・地域に関わることができるのが公立大学の学生であることの最大の強みである、この大会を通して思ったため
- ・身近で多様な人と接し、どのような人も許容される社会をつくることについて考えてほしい。そのために地域の困りごとについてほしいと願っているからです。
- ・学生という立場、医学だけでなく現場を知るべき。大学という立場、学術研究を地域に活かせる点で活用しないと勿体ない
- ・地域活動が何を指すか不透明なので、どちらとも言い難いが、大学の講義やゼミ活動では税金を貰っているから地域に還元すべき。

- ・国立大学や私立大学では地域活動というものがあまり行われていないイメージなので公立大学が前に立ってやっていくべきだと思います。
- ・地域交換活動をするには公立大学の一員としての意識を高めるために必要不可欠
- ・地域は人が一生関わる場であるため学びは人生のどの場面かでも活きています。早くから実際に携わるのは良いことだと思う
- ・地域と関わりをもちやすい体制をもつ機関だから
- ・公立大学は「地域活動」を学生がおこなう際に、強みがあるというか活動を地域に活かしやすいと思ったから

- ・地方公共団体の設定した大学であり地域貢献も一つの仕事、その構成員である学生もやはり関わるべき
- ・その地域に住む学生として地域貢献を考えるのは大切だと思うし、何より活動を通して学生を通して学生が成長できるから
- ・公立大学として存在意義が地域に携わることだと考えるから
- ・地域に貢献することで学べると思うから
- ・学生ならではの視点で考えることで、これまで思いもよらなかった発想へ至るから

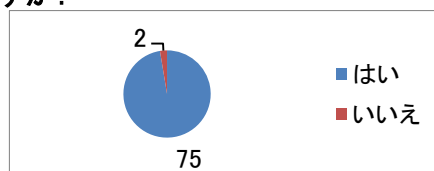
- ・大学、学生に関わらず生きているなら、その他の地域について気に掛けることが大事だと思うから
- ・学びが多く、世間社会から求められることであるため、地域の定義は別途深めたい
- ・身近な人のために何が出来るか考え、実行することはかけがえのない経験だと思うから

いいえの意見

- ・「地域活動」としてしまわずに、自然に大学生生活で地域と関わっていることが良いと思います

(20)地域活動に関わることであなた自身の成長を感じていますか？

	人数(人)
はい	75
いいえ	2
合計	77



(21)前の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。どのような成長をお感じになっていますか？

- ・人のコミュニケーションを取れるようになりました！
- ・地域をみて高齢者の生活を知ることによって医療に携わっていく学生として、「患者さん」としてではなく、地域に住む「生活者」としての視点を持つことができた
- ・人と出会うので色々な話ができて、知識や様々な視点から物事を見る事。どんどん地域を知っていくこと
- ・学生の力を感じた
- ・コミュニティが広がり、再会した時に話すことで学べる機会が多く、知識や色々な視点を持てたと感じた

- ・多世代の人とお話する機会や人前でプレゼンする機会が多かったため、コミュニケーション能力が上がったと感じている。
- ・自分の思うことを試す場であり、学生地域を越えたつながりを得られたと感じる
- ・今までの考えなかったこと考えられるようになり、先輩や先生方のことを素直に尊敬できるようになった
- ・企画や運営力、ディスカッションへの参加の仕方や流れのつかみ方。将来自分がつく職に関する知識や職員さんの考え

- ・これまでの大学内にしか目を向けていなくて全国でどのような地域活動が行われているのか知らなかったのですが、今やっている活動をより良くしていくことの可能性を感じ、中心となって活動していけたらと感じました
- ・自分の視野を広げる。また、他の立場に立って物事を考える
- ・地域と関わることによって、大学生としか話することがない大学生活だったが変わった
- ・授業で聞くだけでは分からないことや、認識のずれを感じることがあります。また、学校での学びが深く身をもって分かるようになりました。
- ・地域活動に加わり、自分の将来や夢をイメージすること、悩むこと、考えることが出来るようになったと思います。

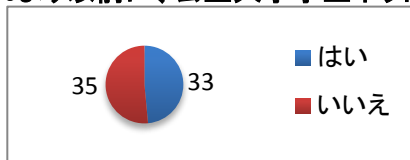
- ・自分の地元の良さに改めて気づいたり、助け合えるコミュニティが生まれる
- ・普段の生活では関われない人と関わることで、自分の引出が増える
- ・地域活動を知ることは自分を知ること
- ・地域活動にかかわってみて、大学のある地域での問題や今後起こり得ることがわかり、何だろうと考えられることができました。
- ・学生同士はもちろん様々な世代、立場の人々と関わることに喜びを感じるようになりました

- ・自分発信でムーブメントを起こす力。周りを巻き込んで風を起こすことがくせになっている
- ・以前よりも自分の答えを伝えられるようになったこと、接触的になったこと
- ・社会に出ても恥ずかしくない人間に近づいた気がする
- ・人とのつながりの中で、自分の貴重な課題が見えたり、人との関わりなども学ぶことができることです。
- ・いろんな人がいて、いろんな意見をもらえて自分の中の考え方もずいぶん変わって成長できたと思います

- ・積極性が身に付きました
- ・自主性やチームワークなど通して課題解決力
- ・学校以外で活動することで世の中の問題について考えるようになった
- ・対人コミュニケーションスキル、マナーの向上

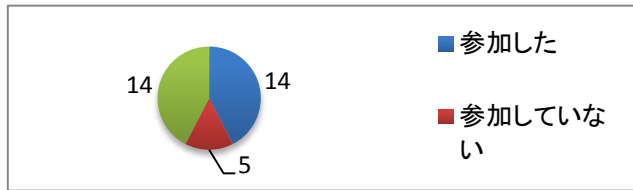
(22)本年度の学生大会LINK topoより以前に、公立大学学生ネットワークの存在を知っていましたか？

	人数(人)
はい	33
いいえ	35
合計	68



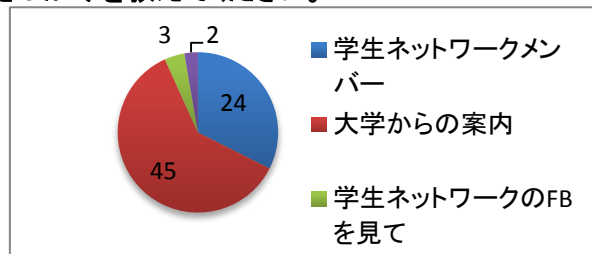
(23)上の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。昨年度の開催から本年度の開催までの間にあなたの所属する地区での集まりはありましたか？そしてそれに参加しましたか？

	人数(人)
参加した	14
参加していない	5
いいえ	14
合計	33



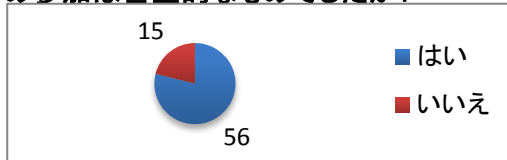
(24)本年度の学生大会LINK toposへの参加のきっかけを教えてください。

	人数(人)
学生ネットワークメンバー	24
大学からの案内	45
学生ネットワークのFBを見て	3
その他	2
合計	74



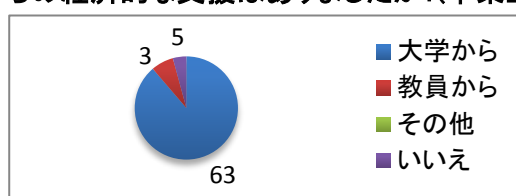
(25)本年度の学生大会LINK toposへの参加は自主的なものでしたか？

	人数(人)
はい	56
いいえ	15
合計	71



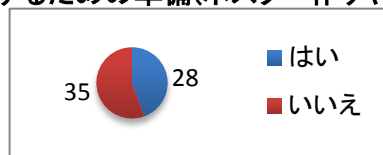
(26)参加に対して、大学などからの経済的な支援はありましたか？(卒業生の回答は除く)

	人数(人)
大学から	63
教員から	5
その他	0
いいえ	3
合計	71



(27)学生大会LINK toposに参加するための準備(ポスター作りや交通費などの工面)は大変でしたか？

	人数(人)
はい	28
いいえ	35
合計	63



(28)2日間もしくは3日間を通しての心境の変化や発見があれば教えてください。

- ・自分の中でやりたいこととと思っていることと大学に戻ってから、これから企画していきたいと思いました
- ・地域で活動するって何だろうとすごく思っていたのですが、何となく見えてきたり、周り(他の大学)からヒントを得たりできて、モチベーションがかなり上がっています
- ・発表することが苦手で大嫌いでしたが、楽しむものという発想をもらった
- ・外を見ることの必要性が確信に変わった、
- ・「地域住民」のアプローチ対象に「中間世代」が自分の中に欠けていた
- ・ボランティアをやる人はすごいなと思った。
- ・地方の課題についてももっと目を向けるべきだと感じた。
- ・他の大学の活動を聞いて学生としてのアプローチや大学との連携についての可能性を感じました
- ・学生ができることの多さ、その限界、大学として活動することにより生まれる可能性を知れた
- ・泊まりながらだったので、宿舎内でも話し合っていた。余計なことを考えずに自分の活動を見直すことができた。

(28)の続き

- ・ここまで様々な違う見方をもつ方々の接点はなかったため、そういった方から新しい見方、励まされる気持ちを感じました
- ・全国にはこんなにもたくさんの地域活動をしている学生がいることを知り、私ももっと継続的に関わっていきたいと感じた
- ・最初は大学で出てみない？と言われ半強制的のような参加でしたが今は本当に来てよかったと思えるし、今後も活動していきたいと思いました
- ・自分と変わらない年齢の世代に地域活動への熱い思いを持ったひとがこんなに大勢いることを知り驚きました。

- ・目標を達成するためには共有できる仲間とそれを一緒に笑って取り組める雰囲気の大切さに気付いた
- ・地域貢献が必要だと感じている学生さんがいることを知りました。
- ・全国の仲間と連絡を取りたい
- ・参加してここならではの学びがあった。楽しかった。
- ・ボランティア活動等参加している学生が身の回りにいないので、そういった方々の影響が大きい
- ・初対面の方が多いのに関わらずに学生のみんなが積極的に交流を深めていたとこ

- ・もっとがんばろう！もっといろんな人の話を聞こう
- ・本当にこういう機会はあるべきだと感じたし、後輩に勧める。本当にいい。
- ・まだまだ自分自身に足りないことがいっぱいあること、地域との活動にさらに積極的に進んでいきたい。
- ・どうあるべきか今まで悩んでいたが参加したことにより決意ができた！
- ・今回初めて参加しましたが、初日から参加できれば良かったなあと思いました。他大学の活動を知ったり交流ができたのはとてもよかったです。
- ・自分の中の普通レベルが引き上げられた

- ・大学生にも大きなプロジェクトを起こせるようなチャンスがあることがわかりました
- ・大学の1つの機関の中で地域活動を行っているため、少し自分たちがやっている活動から離れて考えてみるということも大切だと思うようになった
- ・メーカーとして働いていて、忘れていたことを再確認できた。
- ・後輩、参加者、先生と再会して自分を見つめ直すきっかけとなった

(29)公立大学学生ネットワーク及び学生大会LINK toposは今後どうあるべきだと思いますか。

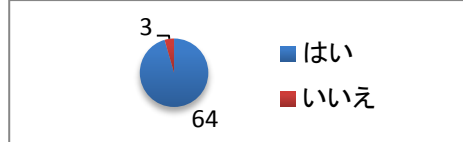
- ・人との繋がりのきっかけをつくる場であるべきだと思います
- ・もっと展開していくべきであり、いろんな組織を巻き込んでいけたらいい
- ・もっと参加していない公立大学の人と交流(規模を大きく)していくべきかなと思います。
- ・日常的につながることができるようにしたらどうでしょう
- ・1つにまとめずとも国公私大学でのネットワークも作るべき

- ・全国の公立大学の学生が他大学の活動を知ったり、交流する場
- ・年に1度の大会ではなく、もっと気軽に活動を共有できるようになりたい
- ・ポスターセッションを増やす。地域ごとに分かれたディスカッションなど新しく参加する大学を開拓する
- ・楽しさと真面目さのけじめをつけたイベント
- ・公立大学の学生皆がLINK toposと関わって何のことかすぐ言えちゃうくらいの大きなネットワークになればうれしいです！
- ・被災地活動を行っているので、現地の学生と一緒に活動できるとよいと思った
- ・全国の素敵な学生のつながりを生み出す場

- ・進化してほしい
- ・生徒と教職員・学長の比率が同程度になってほしい
- ・人から人への熱意を伝えていくこと
- ・100年後も続けているべき！
- ・小さくても1つつ実績を作る
- ・同じような活動をする中で同じ悩みを持つことが多いと思うので、事前に他の団体に聞きたいことを集めて当日、各大学が答えられる仕組みづくり
- ・発表で終わらずにそれをどんどん実現していけるようなシステムになればいいと思います
- ・今後も全国の公立大学、学生の地域活動の情報交換ができる。さらにいろんな人(学生、教職員、学長、OBOGなど)と知り合える場であってほしいです

(30)学生大会LINK toposでの成果を大学に戻ってから、活かすおつもりですか？

	人数(人)
はい	64
いいえ	3
合計	67

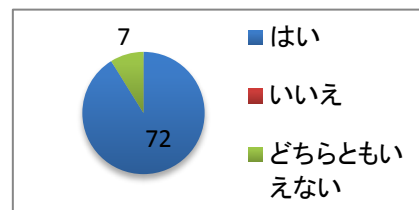


(31)上の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。それは、どのような方法で行いますか？

- ・まずは周りに発信したいと思います
- ・LINK toposが知られていないため、学内の掲示板に載せるかPPTを作って発表したいと思う
- ・サークルのメンバーと共有し、何ができるか考えます
- ・ボランティアサークルの後輩たちへの報告、ディスカッション
- ・学内のLINK toposを実施しようと思います
- ・大学として活動の土壌づくり
- ・地域に積極的に活動する。できることをする、口コミレベルで広める
- ・活動をもっと活発に自発的にしていくことや多くの人に広めることなどをしていきたいです
- ・まずは先生方、および学長へのフィードバックから行う。その後学生からの協力を行いたい。
- ・学生たちとの連携はもちろん仕事を進めていく上でも気づきを大切にしていきたい
- ・教授に相談したり志文で調べたりした
- ・アイデアをTTP(徹底的にパくる)する
- ・自分のチームに繋がる部分があったので、共有していきたい
- ・LINK toposを広める学内LINK toposのようなものを目指す！
- ・住民・患者の声を聞く
- ・アクションプランの実行
- ・研究室での活動に活かしながら、学内で交流を行い、仲間を増やしたいです
- ・とりあえず日常の防災意識から
- ・自分の所属する団体の中でLINK toposで知った企画や取り組みの良い所を真似したいです
- ・学長報告・大学報告、後輩育成など
- ・今回多くの方々にいただいたご意見を研究に反映させたい
- ・現在行っている活動にもっとできることを取り入れていく
- ・4月のオリエンテーションで行いたい

(32)来年も学生大会LINK toposを開催すべきだと思いますか。

	人数(人)
はい	72
いいえ	0
どちらともいえない	7
合計	79



H27全国公立大学学生大会LINK toposアンケート

大学名 _____ 氏名 _____ 学生・教員・職員

学部・学年 _____ (*匿名可)

【10日】 ※10日から参加した人のみ記入して下さい

1) 事前交流会内の アイスブレイクの内容はどうでしたか。	1. とてもよい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない 理由()
2) アイスブレイクで特に良かった点を教えてください。	
3) 改善点があれば教えてください。	
4) ポスターセッションはどうでしたか。	1. とてもよい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない 理由()
5) ポスターセッションで特に良かった点を教えてください。	
6) 改善点があれば教えてください。	

【11日目】

ワークショップについて	
7) 「防災意識の啓発」「地域コミュニティの創造」という テーマ設定はどうでしたか。	1. とてもよい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない 理由()
8) ワークショップで特に良かった点を教えてください。	
9) 改善点があれば教えてください。	

シンポジウムについて	
10) 講演の内容はどうでしたか。	1. とてもよい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない 理由()
11) シンポジウムで特によかった点を教えてください。	
12) 改善点があれば教えてください。	

【3日目】

13) 学長・学生合同プログラムの満足度について教えてください。	1. とても満足 2. まあ満足 3. ふつう 4. やや不満 5. 不満 理由()
14) 学長・学生合同プログラムで特によかった点を教えてください。	
15) 改善点があれば教えてください。	

全体を通して・その他

16) あなたの大学では、学生の関わる「地域活動」が行われていますか？ 行われている場合、それはどのような形態ですか？	1. はい (① ゼミや研究室単位の取り組み ② 大学全体の取り組み ③ 学生やサークルの自主的な取り組み ④ その他) 2. いいえ
17) 上の設問に「はい」とお答えになった方にお聞きします。あなたは上記の活動のどれに関わっていますか？	① ゼミや研究室単位の取り組み ② 大学全体の取り組み ③ 学生やサークルの自主的な取り組み ④ その他()
18) 公立大学及びその学生は「地域活動」に関わるべきだと思いますか？	1. はい 2. いいえ
19) 上の回答について、その理由をお書きください。	
20) 地域活動に関わることであなた自身の成長を感じていますか？	1. はい 2. いいえ

21) 前の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。どのような成長をお感じになっていますか?	
22) 本年度の学生大会LINK topoより以前に、公立大学学生ネットワークの存在を知っていましたか?	1. はい 2. いいえ
23) 上の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。昨年度の開催から本年度の開催までの間にあなたの所属する地区での集まりはありましたか?そしてそれに参加しましたか?	1. はい (① 参加した ② 参加していない) 2. いいえ
24) 本年度の学生大会LINK toposへの参加のきっかけを教えてください。	1. 学生ネットワークメンバー 2. 大学からの案内 3. 学生ネットワークのFBを見て 4. その他()
25) 本年度の学生大会LINK toposへの参加は自主的なものでしたか?	1. はい 2. いいえ
26) 参加に対して、大学などからの経済的な支援はありましたか?	1. はい (① 大学から ② 教員から ③ その他) 2. いいえ
27) 学生大会LINK toposに参加するための準備(ポスター作りや交通費などの工面)は大変でしたか?	1. はい 2. いいえ
28) 2日間もしくは3日間を通しての心境の変化や発見があれば教えてください。	
29) 公立大学学生ネットワーク及び学生大会LINK toposは今後どうあるべきだと思いますか。	
30) 学生大会LINK toposでの成果を大学に戻ってから、活かすおつもりですか?	1. はい 2. いいえ
31) 上の質問に「はい」とお答えになった方へお聞きします。それは、どのような方法で行いますか?	
32) 来年も学生大会LINK toposを開催すべきだと思いますか。	1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない理由()
33) 今後、公立大学学生ネットワークからの情報がほしいですか。(今後、地区での集まり催す場合、連絡いたします)	1. はい 2. いいえ

その他、ご意見などありましたら、自由にお書きください。

アンケートご協力ありがとうございました。

2015年10月12日 公立大学学生ネットワーク